

S09b

トランジェント電波源の探索とその解析

中村亮介、国吉雅也、松村寛夫、岳藤一宏、新沼浩太郎、貴田寿美子、竹内暁彦、鈴木繁広、田中泰、石川聖、青木貴弘、瀧山弾、大師堂経明(早稲田大学)、遊馬邦之(久喜高校)

早稲田大学那須パルサー観測所において、現在 1.4GHz、20m 固定球面鏡 8 機を用いて、トランジェント電波源や電波強度の変化する電波源の発見を目的としてドリフトスキャン方式での定常的観測を行っている。今回 2006 年 5 月 3 日～5 月 8 日におけるデータを解析したところ、銀河面から 20 度以上離れた位置、RA10h5m Dec32deg 付近に約 1900mJy の突発的な電波強度の変化を確認した。このエラーボックス内には低周波の電波源 4C32.34($z=0.9$ 、1212mJy) が存在する。この天体をカタログで調べると $\log f$ (Jy)- \log (Hz) のスペクトルはほぼ直線となっておりこのような天体では、バースト現象は起こりにくいものとされている。このトランジェント天体について、実際に 4C32.34 であるのかを確認し、または続けてバーストが起きるかどうかをモニターしている。